令和４年１月

東京都土地改良だより

第 157 号

令和 2 年度　大島町
「沢立貯水池」堤体改修工事

－　誌面の概要　－

・新年のご挨拶

・令和 4 年度農業基盤整備関係予算の概要

・第 43 回全国土地改良大会　群馬大会（2021.10.6 オンライン開催）

・第 44 回全国土地改良大会　沖縄大会（2022.11.22 開催予定）

・子ども絵画展で水土里ネット東京会長賞等 3 作品！

新年のご挨拶

東京都土地改良事業団体連合会

会 長　　山 下　奉 也

あけましておめでとうございます。

会員並びに関係者の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素から本会の業務運営並びに農業基盤整備事業の推進にあたり、特段のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

蔓延する新型コロナウイルス感染症は、年末から新たな変異株の「オミクロン株」に置き換わり、拡大に転じ今なお終息の見通しが立たない状況にあります。一昨年来の「緊急事態宣言」と「まん延防止等重点措置」などによって、経済活動に大きな影響を及ぼしております。活動が制限される中、本会としても可能な限りの対策を講じながら、会員の皆様方からの負託に応えるべく誠心誠意業務に取り組んで参りました。

今年こそ、一日も早く平穏な生活と経済の回復を取り戻すことが出来ますよう、引き続き感染拡大の防止に努め、終息を祈念する次第であります。

昨年もまた、全国各地で豪雨や長雨などによる災害が発生し、多大な被害を受けました。とりわけ静岡県熱海市の土砂災害は、工事に携わる関係者として記憶に留め、再発防止への教訓としなければならないものでした。被災された皆様方には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心より願う次第であります。

さて、農林水産省の令和４年度農業農村整備事業等予算は、昨年３月に策定された「土地改良長期計画」で掲げた政策課題に取り組むべく、土地改良関係者の熱い要請活動もあって必要予算を確保しております。新規事業はもとより、これまでの農業基盤強化をはじめとする関連施策を見直し、防災・減災・国土強靱化、土地改良区の運営体制の強化など、土地改良法の改正も視野に入れた現実的な制度に取り組んでいます。

東京農業の現状は、農業の担い手の高齢と後継者の確保が困難な状況が一層進行し、山村地域や離島においては耕作放棄地や農地の遊休化が深刻な状況にあります。

地域農業を振興していくうえで、農業従事者の確保と農業基盤の整備は必要不可欠であり、一体的な取り組みが求められています。

本会としましては、東京都をはじめ会員市町村並びに土地改良区とともに、農業農村整備事業の新規対策や見直しが行われ拡充された各種事業と改善される制度などを活用して、農業の新たな担い手の確保を視野に入れた農業基盤整備事業の導入に向けて取り組んで行く所存であります。

土地改良区におきましては、４月から貸借対照表及び員外監事に関する制度の運用などが義務化されますが、国や東京都の制度を活用し、土地改良区が抱える様々な課題に対しても引き続き支援して参ります。

東京都は、新規事業としましてＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）による農業基盤の防災力の強化に関する予算を計上しており、市町村が実施するデジタル技術を活用した各種施設整備への支援を進め、緊急時の対応を強化することとしています。

本会としましては、東京都をはじめ会員の皆様方とともに新たにスタートする施策を具体化し活用しながら、役職員一丸となって各種施策の円滑な推進に取り組んで参る　所存でございますので、本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新年のご挨拶

東京都産業労働局農林水産部
農業基盤整備担当課長　渋谷　圭助

新年、明けましておめでとうございます。

令和４年の新春を迎え、謹んでお祝い申し上げます。

日頃より東京都の農業振興施策の推進にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

昨年は、コロナ禍の影響により１年間延期されました、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。無観客であったことは残念でありますが、世界中に大きな感動を与えられたと感じております。

現在は、ワクチン接種が進み全国的に感染者数は減少傾向になりましたが、新種のオミクロン株が検出されるなど、今もなお予断を許さない状況が続いております。

昨年、３月１１日には東日本大震災から１０年が経過したことや、静岡県熱海市で上流部の盛り土が原因とする土砂災害が発生する等、全国でも豪雨災害が多発し、農地・農業用施設にも多大な被害をもたらしました。改めて被災された方へのお見舞いとお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りいたします。

さて、国では土地改良制度の見直しが行われ、自然災害に対する土地改良施設の安全性の向上を図るとともに、担い手への農用地の集積・集約化を加速化させるため、ため池等の農業水利施設の豪雨対策の迅速な実施、農地中間管理機構が一定のまとまりで借り受けた農用地を対象とした土地改良事業の充実等の措置を講じることとなりました。その中には、市町村、土地改良区等が緊急的な防災・減災対策や小規模な基盤整備を機動的かつ円滑に実施できるよう、土地改良事業団体連合会の業務を見直し、会員からの委託を受けて土地改良事業の実施に向けた法手続きや地元説明等の業務補助及び工事を外部発注して実施することを連合会の業務内容として追加されます。

東京都においても、引き続き土地改良事業団体連合会との連携を図りながら、市町村、土地改良区の支援をしてまいります。

国の令和４年度農業農村整備予算は４，４５３億円（対前年比１００．５％）となっています。また、防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策、TPP 対策等の令和３年度補正予算も含め、６，２８５億円が計上されています。

一方、東京都の令和４年度の予算案は、一般会計の歳出総額で、７兆８，０１０億円（対前年比１０５．１％）となっています。そのうち農業基盤関係予算については、約１５．４億（対前年比９０．８％）を計上しています。

農地防災関係においては、防災重点農業用ため池に指定している、八丈町銚子の口ため池の防災工事に着手するほか、新規事業として DX による農業基盤の防災力の強化に関する予算を追加し、市町村等が実施するデジタル技術を活用した、かんがい施設整備について支援を進め、離島及び内地における貴重な水資源の適正管理、災害発生の防止、移動等の負担軽減や緊急時の対応を強化してまいります。

引き続き、区市町村、土地改良区等が実施する農業基盤整備事業に対しまして、全面的に支援してまいりますので、要望等ありましたら、何なりとご相談いただければ幸いです。

令和４年度農業基盤整備関係予算の概要（東京都）

令和４年度の農業基盤整備関係の予算案ついては、災害復旧事業費が大きく減少し、防災重点ため池の整備、DX による農業基盤の防災力の強化対策を新規事業として追加したことにより、約 15.4 億円（対前年比 90.8%）が確保されています。

【主要な事業】

１　基盤整備促進：24,640 千円～農山漁村地域整備交付金

農道及びかんがい施設等の農業基盤の整備を行い、地域の実状に応じた農用地の高度利用による農業生産性の向上を図る。

２　地域農業水利施設ｽﾄｯｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ：103,494 千円～農業水利施設ｽﾄﾏﾈ、農業水利施設保全合理化

団体営事業等で造成された農業水利施設の耐震対策や老朽化による更新等について、機能診断に基づき計画的な対策工事を行い、農業用水の安定供給を図る。

３　小規模土地改良：151,347 千円

受益面積がおおむね 2ha 以上の地域で実施する国庫補助対象外の農業基盤整備に補助し、地域の実情に即した整備を進め、農業生産性の向上に資する。

４　魚の遡上を阻害する土砂撤去等：7,700 千円

魚道を魚（アユ等）が支障なく遡上できるよう、市町村、土地改良区（農業用水堰管理者）、漁協（魚道受益者）の連携のもと、農業用水堰及び魚道の機能の維持・改善を支援する。

５　農地防災：129,302 千円～ため池整備、用排水施設整備、農業用河川工作物応急対策

農地及び農業用施設における災害の発生を未然に防止するための工事を行う。

６　農地及び農業用施設災害復旧事業：1,000 千円

異常な天然現象により被災した農地及び農業用施設の復旧工事を行う。

７　都市農地保全支援ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：316,814 千円

農地が持つ防災や環境保全などの多面的機能をより発揮させるとともに、地域住民に配慮した基盤整備により、貴重な都市農地の保全を図る。

８　DX による農業基盤の防災力強化：445,689 千円

デジタル技術を活用した畑地かんがい施設整備について支援を進め、内地及び離島における重要な水資源の適正管理、災害発生の防止、移動等の負担軽減や緊急時の対応強化を図る。

令和4年度農業基盤整備関係予算（農業振興課）　（歳出ベース）

予算事項名	令和4年度 予算額（千円）	令和3年度 予算額（千円）	比率 R3比	
基盤整備促進（公）	24,640	26,950	↓	91.4%
地域農業水利施設ｽﾄｯｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ（公）	103,494	103,595	↓	99.9%
小規模土地改良（単）	151,347	151,033	↑	100.2%
農村総合整備（公）	13,090	11,550	↑	113.3%
土地改良指導等（公・単）	10,197	2,252	↑	452.8%
畑地灌漑施設等実態調査	2,536	2,536	→	100.0%
魚の遡上を阻害する土砂撤去等	7,700	7,700	→	100.0%
農地防災（公）	129,302	47,953	↑	269.6%
農地及び農業用施設災害復旧（公）	1,000	804,384	↓	0.1%
小笠原農業基盤整備（公）	138,600	23,765	↑	583.2%
小笠原農業基盤施設等維持補修（単）	155,716	141,613	↑	110.0%
都市農地保全支援プロジェクト（単）	316,814	332,887	↓	95.2%
農地の創出・再生支援事業（単）	36,864	36,867	→	100.0%
水土里保全活動支援（公）	3,016	2,922	↑	103.2%
DXによる農業基盤の防災力強化（単）	445,689	0	↑	皆増
合　　計	1,540,005	1,696,007	↓	90.8%

第 43 回（令和３年度）全国土地改良大会　群馬大会

鶴舞う形　群馬の大地　水土里の未来へ　ここから羽ばたいて

第４３回全国土地改良大会群馬大会は、令和２年に開催される予定であったのですが、新型コロナ感染症拡大の影響で１年延期され、令和３年１０月６日、高崎市の Ｇ メッセ群馬の群馬会場と東京会場、次期開催の沖縄会場並びに全国各地をオンラインで結ぶ、初めてのオンライン開催となりました。

本来ならば、「山々に囲まれた大地を耕し、水を導き、故郷の土をつくり続けてきた群馬の地に」、全国から土地改良の仲間が集い、功労者を称え、農業を魅力ある産業としていくために土地改良事業が果たす役割と重要性を、全国にアピールするとともに　交流し交歓する場でもあります。

大会は、熊川栄群馬県土地改良事業団体連合会会長の開会挨拶で幕を開け、主催者を代表して二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長は、熊川会長を先頭に足かけ３年にわたり準備を進めてきた群馬県土連をはじめ関係市町村、地元土地改良の皆様方への謝辞を述べるとともに「農家の方々が期待をもって働けるような環境をつくるため、一致団結して闘っていかなければならない」、『「闘う土地改良」の代表として先頭に立って活躍する進藤金比子、宮崎雅夫の両参議院議員へのご支援とご尽力に御礼申し上げるとともに、２人への叱咤激励を引き続きお願いする』との挨拶がありました。

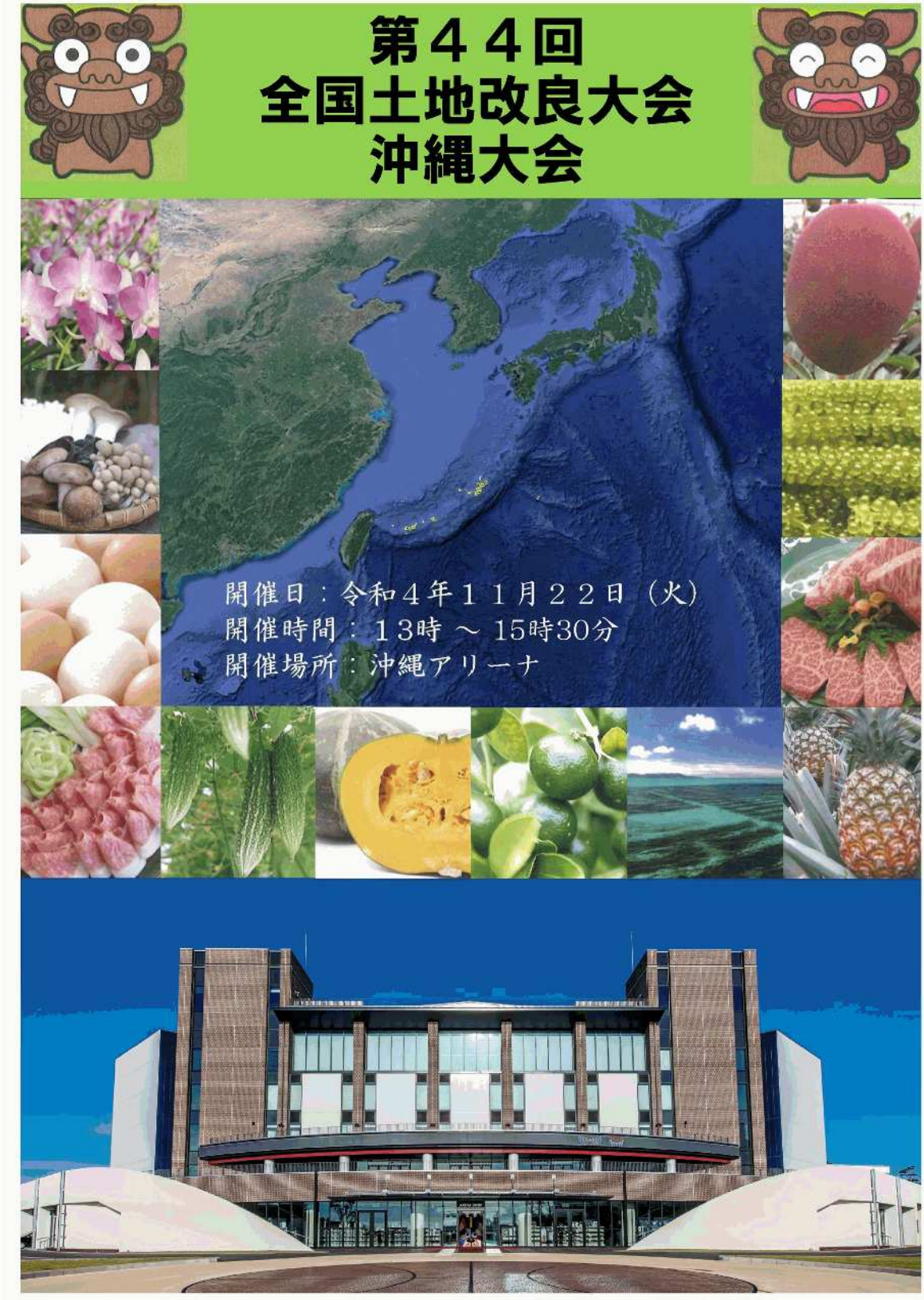
続いて、山本一太群馬県知事と富岡賢治高崎市長から歓迎のことば、金子原二郎農林水産大臣、小渕優子衆議院議員、宮崎雅夫参議院議員（農林水産政務官）から来賓祝辞があり、進藤金日子参議院議員は東京会場から参加されました。

大会は、土地改良事業に功績のあった方々の表彰、安部伸治農林水産省農村振興局次長の「未来（あす）の土地改良」と題する基調講演、進藤参議院議員からは、これまでの５年間の活動実績と農政課題など今後の取り組む方向性の講演がありました。

群馬県立吾妻中央高等学校の関 空翔さんと黒岩梓紗さんが『全国の仲間とともに歴史をつむぎ、新しい時代の土地改良へ向け進んでいくことを、「鶴舞う形　群馬の大地　水土里の未来へ　ここから羽ばたいて」のスローガンのもと、ここ上州の地、群馬から、高らかに宣言します。』と力強く、大会宣言が朗読されました。

最後に、次期開催県の古謝景春沖縄県土連会長から、「コロナ禍の終息を願い準備を進め、全国の皆様の参加を心からお待ちしております」との挨拶があり、大会旗の代わりに目録が引き継がれ、群馬県土連副会長の挨拶で閉会となりました。

第 44 回（令和４年度）全国土地改良大会　沖縄大会



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2021　～新発見！私たちのふるさと自慢～

令和３年 12 月４日～12 月 11 日　上野　東京都美術館

平成１２年度から全国水土里ネットと都道府県水土里ネットが主催し、今年で２２回目を迎えた「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展は、未来を担う子供たちが絵画を通じて、ふるさとの田んぼや自然のすばらしさを発見し、水・土・里への関心を高めてもらい、多くの人々に農業・農村の魅力をアピールすることを目的に開催されています。

今回は、『新発見！わたしたちのふるさと自慢』をテーマに、全国から４,１２０点の応募がありました。東京都からは、小平市と国立市の小学生１４０名が出展し、有識者による厳正な審査の結果、以下の作品が受賞しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、家族旅行をすることも少なかったでしょうし、都会に住む子どもたちが、限られた機会の中で思い思いの体験を表現した作品を観るにつけ、参加した子どもたちと、取りまとめて頂いた先生方に改めて感謝する次第です。

全国水土里ネットと都道府県水土里ネットが主催する「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展は、未来を担う子供たちが絵画を通じて、ふるさとの田んぼや自然のすばらしさを発見し、水・土・里への関心を高めてもらい、多くの人々に農業・農村の魅力をアピールすることを目的に開催され、今回で２２回目を迎えました。

『新発見！わたしたちのふるさと自慢』をテーマに、全国から４,１２０点の応募があり、東京都からは、小平市と国立市の小学生１４０名が出展し、有識者による厳正な審査の結果、以下の作品が受賞しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、出掛けることも制限された都会に住む子どもたちが、限られた機会の中で思い思いの体験を表現した作品を観るにつけ、参加した子どもたちと、ご協力いただいた先生方に改めて感謝する次第であります。

～　小平市立小平第六小学校の皆さん　～

６年生　田中みのりさん
（作品名）ひいお爺ちゃんとおいもほり
水土里ネット東京会長

６年生　大下紗和さん
（作品名）楽しかった棚田の代かき
佳　作

６年生　安藤桔平さん
（作品名）ぼくたちの六棚
佳　作

「農業農村整備の集い」の開催　～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて

令和3年11月16日　砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」

令和３年11月16日(火)、東京都千代田区の砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」において「農業農村整備の集い」が開催されました。

この集いは、全国の土地改良関係者をはじめ国会議員などが参加し、農業農村整備の一層の推進を図っていくことを目的に例年春と秋に開催されています。新型コロナウイルス感染症の拡大があって、春は見送られましたが今回は参加者の規模を縮小しての開催となりました。

農林水産省からは金子　原二郎農林水産大臣、武部新副大臣、宮崎雅夫政務官はじめ牧農村振興局長、安部次長、川合整備部長などの幹部職員が出席しました。

二階 俊博全国土地改良事業団体連合会長は、主催者挨拶の中で「令和３年度農業農村整備予算が多くの方々のご尽力によって、令和２年度の補正予算と合わせて６，３００億円を確保するとともに、防災・減災のための国土強靭化対策が延長され、新たな５か年加速化対策が予算化されることとなった。農家の方々が期待をもって働けるような環境をつくるため、我々は一致団結して闘っていかなければならない。」と力強く訴えました。

来賓の祝辞で金子農林水産大臣は、農林水産省の様々な取り組みを進めていく中で、農業農村整備事業は、農地や農業水利施設といった農業にとって必要不可欠な生産基盤を整備する事業であり、農村地域の安全・安心な暮らしを実現するうえで、大変重要な事業である。農業の競争力強化や農村地域の国土強靭化を図るための農業農村整備を、全国の土地改良関係の皆様方とともに、引き続きしっかりと推進していく。事業の着実な推進が図られるよう、今後とも必要な予算の安定的な確保に全力で取り組んでいくと述べられました。

引き続き、自民党の森山 裕ＴＰＰ・日ＥＵ・日米ＴＡＧ等経済協定対策本部長、公明党の石井啓一幹事長、進藤金日子都道府県水土里ネット会長会議顧問が祝辞を述べられました。

また、土地改良における男女共同参画を先駆的に実践した、故藤井チエ子（山口県土連理事、やまぐち水土里ネット女性の会初代会長）と奥村千扶子（大島堰土地改良区理事長、日本ひなた女子会会長）の両氏に、二階会長から感謝状が授与されました。

その後、要請文を今年の全国土地改良大会を主催する沖縄県土地改良事業団体連合会の古謝景春会長が朗読し、新年度予算の確保に向けてガンバロウを三唱、土地改良団体の更なる発展を誓い盛会のうちに集いは閉会しました。

皆さんも「水土里保全活動支援事業」に参加しませんか！

東京農業は、都市化による農地の減少や収益性の悪化、農家の高齢化の進行や担い手不足など厳しい環境に置かれ、共同活動によって支えられてきた農業・農地が持つ多面的機能の発揮に支障が生じています。

そのため、東京都は平成 27 年度から国の「多面的機能支払交付金」の制度を活用し、農家や地域住民が共同で行う活動に対し資金援助を行い、農地や農道・ため池・農業用水路といった地域資源の適切な保全管理を推進する「水土里保全活動支援事業」を開始しました。

支援の内容（イメージ）

▶ 地域資源の基礎的保全を図る共同活動を支援します！

1 地域活動支援（農地維持）

農地法面の草刈

水路の泥上げ

農道の路面維持

遊休農地発生防止

▶ 地域資源の質的向上を図る共同活動を支援します！

2 資源向上活動支援（共同活動）

ひび割れ補修

植栽活動

学校教育との連携

生きもの調査

▶ 施設の長寿命化のための共同活動を支援します！

3 資源向上活動支援（長寿命化）

水路の補修

安全施設の整備

水路の更新

土砂道の補修

▶ 東京都では、独自の支援を受けることができます！

4 地域活動支援（水路維持）

上記の①～③の支援活動費の他に、管理する水路10mあたり3,000 円を加算して支援します。

補助単価・補助率 10/10

農地面積 10aあたり	田	畑
	3,000 円	2,000 円
	2,400 円	1,440 円
	4,400 円	2,000 円
	3,000 円/10m	

活動の手順

① 活動組織の設立	地域で活動できる組織の設立
② 事業計画書の作成	5年間の事業計画、活動計画の作成
③ 事業計画書の提出	事業計画の認定を受けるために区市町村へ申請
④ 活動実施・補助金交付	補助金交付を受け活動を実施
⑤ 活動の報告	活動内容や金銭収支を記録し区市町村へ報告

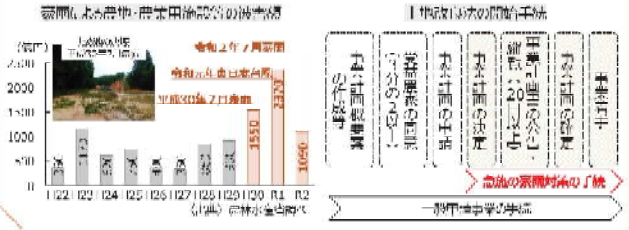
【お問い合わせ】
東京都・農林水産部農業振興課
土地改良計画担当
☎　０３－５３２０－４８２４
（ダイヤルイン）

土地改良制度の見直しのポイント

○ 自然災害に対する土地改良施設の安全性の向上を図るとともに、担い手への農用地の集積・集約化を加速させるため、ため池等の農業水利施設の豪雨対策の迅速な実施、農地中間管理機構が一定のまとまりで借り受けた農用地を対象とした土地改良事業の拡充等の措置を講ずる。

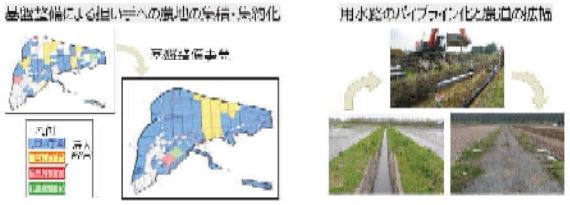
（１）急施の防災事業の拡充

国又は地方自治体が、農業者の費用負担や同意を求めずに、ため池や排水機場等の豪雨対策を実施できることとする。（現行制度は地震対策のみが対象）



（２）農地中間管理機構関連農地整備事業の拡充

都道府県が、農業者の費用負担や同意を求めずに実施する農地中間管理機構関連農地整備事業の対象に農業用用排水施設、農業用道路等を追加する。（現行制度は、区画整理及び農用地造成のみが対象）



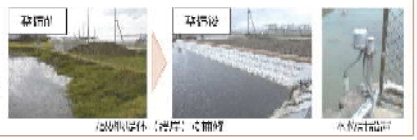
（３）土地改良事業団体連合会の業務の見直し

市町村、土地改良区等が、緊急的な防災・減災対策や小規模な基盤整備を機動的かつ円滑に実施できるよう、土地改良事業団体連合会の事業に次の事業を追加する。

（１）全国連合会にあっては、会員（都道府県連合会の会員を含む。）が土地改良施設の管理を適正に行うために必要な資金の融通・交付（※）

（２）会員から委託を受けて行う土地改良事業の工事

※ 土地改良施設維持管理適正化事業のうち、防災減災機能等強化対策（R4拡充要求）の円滑の融通・交付を行うための制度



（４）土地改良区の組織変更制度の創設

解散を予定している小規模土地改良区が、一定の条件のもと、法人格を維持しながら、一般社団法人又は認可地縁団体※に組織変更できることとする。

1

（３）② 土地改良事業団体連合会の業務の見直し（委託を受けて行う土地改良事業の工事）

土地改良事業団体連合会は、市町村、土地改良区等からの委託を受けて、土地改良事業の工事を行うことができることとする。

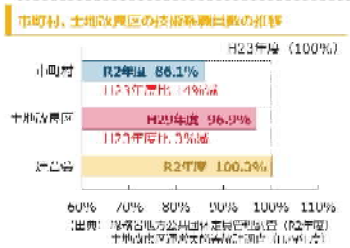
背景

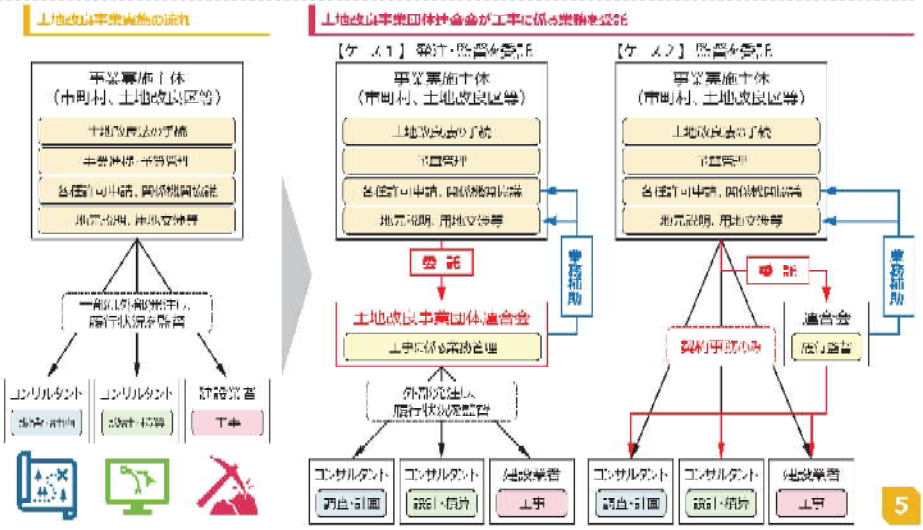
○ 市町村、土地改良区等において、土地改良事業の工事施工等を担当する技術職員が年々減少。定年退職後も嘱託職員、再任用職員として現場を支えてきた団塊の世代の人材もリタイアする年齢を迎えつつある。

○ 土地改良事業の実施に係る一連の業務（調査・計画・設計、工事の発注、維持管理等）を担う人材が不足して、市町村、土地改良区等が実施する土地改良事業の円滑な実施に支障が生じるおそれ。

対応

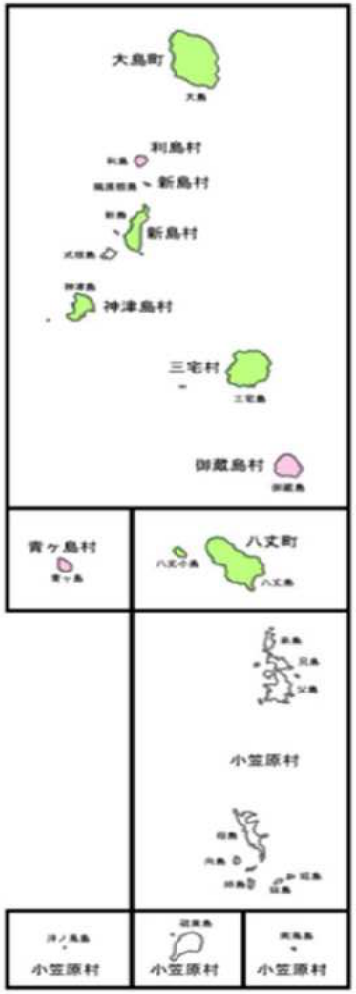
○ 市町村、土地改良区等の技術職員の不足を踏まえ、防災・減災対策や小規模な農業基盤の整備等を円滑に行うため、土地改良事業団体連合会は、会員である市町村、土地改良区等からの委託を受けて土地改良事業の工事を実施できることとする。





5

土地改良区の位置と東京連合会の会員状況



地域で守ろう豊かな自然

http://www.midorinet-tokyo.or.jp

発行元

東京都土地改良事業団体連合会
東京都立川市錦町3丁目12番地11号

TEL：042-548-0371　FAX：042-548-0375
URL：http://www.midorinet-tokyo.or.jp